

東京都地方独立行政法人評価委員会
平成27年度第4回試験研究分科会 議事概要

1 日 時：平成27年9月11日(金)16時00分から17時00分まで

2 場 所：都庁第二本庁舎31階 特別会議室21

3 出席者：青山委員、北村委員、藤竿委員、森委員（五十音順）

4 議 題：

(1) 審議事項

① 第二期中期目標期間終了時における組織・業務全般の検討について

② 地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター第三期中期目標（案）について

(2) その他

5 議事概要：

(1) 第二期中期目標期間終了時における組織・業務全般の検討について

事務局から資料1、2により、第二期中期目標期間終了時における組織・業務全般の検討について説明。

【質疑応答・委員意見】 ※ゴシックが委員の意見、⇒は事務局の説明

・平成26年度の業務実績評価は前年度と比べて、評価を下げている。来年度の業務を検討するに当たっては、また評価基準についても検討すべきではないか。

第二期中期目標中の業務運営や運営形態の適切性等を審議した結果、第二期中期目標期間終了時における組織・業務全般の検討(案)を妥当なものとして認め、評価委員会の場で審議することとした。

(2) 地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター第三期中期目標（案）について

事務局から資料3、4、5により、地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター第三期中期目標（案）について説明。

【質疑応答・委員意見】 ※ゴシックが委員の意見、⇒は事務局の説明

・基盤研究の人間生活技術は具体的にどのような技術を想定しているのか。

⇒健康、医療、安全といった分野に寄与する感性工学など人間の感覚に関する研究である。現在墨田支所の生活技術開発セクターで行っている取組をさらに進めていく。

- ・タイに進出するなど様々な動きをしているが、今後の海外展開支援にはどのように取り組んでいくのか。

⇒4月に産業技術研究センターのバンコク支所を、中小企業振興公社が年内に拠点を設置する予定。これにより、ASEAN地域では、技術・経営の両面からの支援が可能となった。

ASEANを第一歩として、広く海外展開支援に都として取り組んでいく。

- ・研究テーマの選定については、実際に使ってもらえる企業を想定できるくらい具体的なイメージをもって取り組むべきではないか。また、保有する特許については、無償で公開するなど、活用促進に向けた取組を行うべきではないか。

- ・産学公金連携を推進していくとなっているが、中小企業の情報を保有している信用金庫など地域の金融機関と連携するのが重要であると考えている。

⇒そのとおりである。金融機関との連携を一層推進していく。

- ・金属の3Dプリンターのような新しい機器を使用した技術支援を行う中で経験した失敗を研究に生かすなど、技術支援と研究の両輪のようにうまく回っていけば、産業技術研究センターのサービスが向上していくはずである。

第三期中期目標の設定背景、研究方針等を審議した結果、第三期中期目標（案）を妥当なものと認め、評価委員会の場で審議することとした。

(3) その他

事務局から今後の日程について説明

以上